

## 平成28年度 建設常任委員会第1回管内視察の概要

■視察日 平成28年8月3日（水）

■視察者 建設常任委員（7名）  
山口 裕（委員長）、田代国広（副委員長）、坂田孝志、西山宗孝  
松村秀逸、山本伸裕、中村亮彦

■視察先 ①国道57号・国道325号【阿蘇大橋】（阿蘇郡南阿蘇村）  
②山王谷川【砂防】（阿蘇郡南阿蘇村）  
③県道熊本高森線【大切畑大橋】（阿蘇郡西原村）  
④テクノ仮設団地【応急仮設住宅・みんなの家】（上益城郡益城町）  
⑤木山川【河川】（上益城郡益城町）

■視察趣旨 平成28年4月14日・16日に発生した「平成28年熊本地震」による被害が特に甚大であった地域の被災状況を確認するとともに、今後の委員会審議の参考とするため、視察を実施しました。

### ■視察の概要

#### ①国道57号・国道325号【阿蘇大橋】

直轄砂防事業を行っている国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の説明によると、熊本地震及び6月の豪雨により、国道57号側斜面が高さ約700m、幅約300mにわたって大規模崩落し、40～50万 $\text{m}^3$ の土砂が流出したものと想定されます。

斜面上部には、崩落の可能性がある不安定な土砂がまだかなり残っており、これらを除去し、斜面の安定化を図った後に、国道や豊肥本線などインフラの復旧工事に着手予定とのことでした。

視察当時は、崩落斜面の中腹において、無人重機数台による「土留盛土工」が着々と進められていました。



#### ②山王谷川【砂防】

熊本地震により約3haの農地が土砂で埋まり、住家10戸が被災しました。また、6月の豪雨により、その下流域では大きな被害が発生しました。

上流部には、不安定な土砂が残っており、熊本県県北広域本部阿蘇地域振興局土木部では、今後、「災害関連緊急砂防工事」として対応していく予定とのことでした。



### ③県道熊本高森線【大切畑大橋】

大切畑大橋においては、熊本地震により橋台支承が損傷し、橋桁の移動や1 m程度の横ずれが見られました。

他の橋梁や俵山トンネル等を含め、復旧までには相当の期間を要するものと思われませんが、直轄権限代行工事を行っている国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所から、現道を活用し、年内には迂回路を確保できるように努力したいとの説明がありました。

国土交通省からの説明を受けた後、大切畑大橋の上を大切畑ダムまで歩き、周辺の被災状況を確認しました。



### ④テクノ仮設団地【応急仮設住宅・みんなの家】

県内最大の大型仮設団地(8 ha)で、住宅516戸、駐車場993台の他、集会所等の機能を持つ木造の「みんなの家」が11棟建築される予定です。

熊本県土木部建築住宅局住宅課の説明によると、みんなの家は、できるだけ住宅の中心に配置され、住棟間の小路を歩いていくと、みんなの家にたどり着くよう配置したのが、いわゆる「熊本型」の仮設団地であるとの説明がありました。

住戸内部は、熊本の気候風土を考慮し、快適で、かつコミュニケーションが図りやすい設計となっており、具体的には、断熱性や遮音性に配慮するとともに、全戸に県産畳表を用いた和室やエアコン、冷蔵庫、洗濯機が備え付けられているとの説明がありました。

なお、当該仮設団地の管理主体は、益城町ということでした。



### ⑤木山川【河川】

6月21日の豪雨により木山川堤防の一部が損壊した箇所に近い五楽橋付近で視察を行いました。

視察地近傍を活断層が走っているため、木山川で約10 km、秋津川で約6 km、矢形川で約7.5 kmの区間において被害が確認されています。

河川堤防は横の揺れに弱く、亀裂や最大1 m程度の沈下が見られ、熊本県県央広域本部上益城地域振興局土木部の見込みでは、3河川で約100億円規模の被害額になるとのことでした。

